

# 千葉県初の県営工業用水道用の水源ダム

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第074号
名称(型式等)	山倉ダム
所在地	千葉県市原市山倉地先
設立(竣工)年	昭和39(1964)年12月

## 選定理由

山倉ダムは昭和34(1959)年に着工し、39(1964)年12月に完成した千葉県初の工業用水専用のダムです。建設が進められた昭和30年代の日本は高度経済成長期にあたり、千葉県でも京葉臨海工業地帯の開発が進められた時期です。山倉ダムは、京葉臨海工業地帯五井市原地区の埋立地に進出した企業に工業用水を供給するために作られました。水は養老川からポンプにより山倉ダムに送って貯留、水量調節した後、郡本浄水場を経て工業地帯に配水されています。

ダムは市原市山倉地先の丘陵地帯と田園地帯との境にあたる場所にあり、養老川付近の流域の谷津先を、土を盛り上げた土堰堤<sup>どえんてい</sup>で締め切って作ったアースダムです。土堰堤は西側と南側の2方向あり、西側の第一堰堤は堤高23.0m、堤頂長740m、南側の第二堰堤は堤高20.5m、堤頂長720mで、総堤頂長1,460mは国内5位の長さ、総貯水容量は510万 $m^3$ 、有効貯水容量450万 $m^3$ です。

取水は養老川河口から約8km上流の養老川右岸の西広取水場で行い、導水管で約1km先のダムへ揚水しています。浄水施設は山倉ダムの下流約2kmにある郡本浄水場で、給水能力は日量120,000 $m^3$ です。

なお、平成12(2000)年度から16(2004)年度にかけて、地震対策として、ダム堤体の強化等を行いました。

山倉ダムは、今や世界最大規模の素材・エネルギー産業の集積地となった京葉臨海工業地帯を支える重要な産業基盤である県営工業用水道の最初の施設であり、現在も大切な役割を担っています。

なお、ダム湖に半島状に突き出た場所には昭和46(1971)年に「千葉県こどもの国」(平成19(2007)年より千葉県レクリエーション都市開発株式会社が「千葉こどもの国キッズダム」として営業)が開園し、アトラクションや体験プログラムなど自然に触れながら一日遊べる施設として人気です。

また、ダム湖面には平成30(2018)年より京セラTCLソーラー合同会社による千葉・山倉水上メガソーラー発電所が設置されています。



全 景

協 力：企業局工業用水部工業用水管理課・施設設備課

参 考：「とことんやさしいダムの本」2018 溝渕利明

「ダム大百科」2020 株式会社実業之日本社

「京葉臨海工業地帯の歩み 第3編」1968 千葉県開発局

「五井市原地区工業用水道事業」1991 千葉県企業庁千葉工業用水道事務所

「山倉ダム耐震性強化工事工事誌」2006 千葉県企業庁

「千葉県土木史」2007 千葉県県土整備部県土整備政策課